

正岡蘇陽

（1875-1920）

評論家。

明治十四年九月五日廣島縣生れ、大正九年

二月二十四日歿（一八八一—一九二〇）。

本名猶一。

筆名蘇陽外史、蘇陽狼譚

NAOICHI MASAOKA。青山學院の學者。明治二十四年新聲社入社、二十

六年森山社並經濟の雜誌『新聲』主幹、二十八年特派記者としてアマ

リカに赴く。四十年『大阪日報』主筆。小説家鈴木秋子と結婚。

著書『新聞社の裏面』（明治二十四年二月二十一日新聲社）、『婦人

の側面』（明治二十四年四月二十日新聲社）、『時代思想の権化—星

亨と社會』（明治二十四年六月一日、増補再版、二十一日新聲社）、

『嗚呼賣淫國』（明治二十四年十月十日新聲社）、『青年叢話・上の

巻』（公署、明治二十五年二月十五日新聲社）、『英雄主義』（明治

二十五年六月十五日新聲社）、『裸體の日本』（明治二十五年七月七

日東都出版社）、『偽善の方面』（明治二十五年八月五日新聲社）、

『新時代の道徳』（明治二十六年六月十六日川文淵閣）、『ごれ女

お』（明治二十六年十一月二十一日新聲社）、『大馬鹿論』（明治二

十七年二月二十六日新聲社）、『文豪ラスキン』（明治二十八年二月

十五日嵩山堂編輯所）、『米國見物』（明治四十二年一月二十七日昭

文堂）、『米國及米國人』（本名、大正二年八月二十一日西社）、

『米國膨脹論』（同、大正二年二月二十日隆文館）等。